【186】

氏名	楠　目　祥　雄
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第 3418号
学位授与の日付	平成11年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第4条第2項該当）
学位論文題目	家兎実験モデルによるセボフルラン，メトキシフルラン麻酔後の腎内部位別無機フッ素濃度とその経時的変化
論文審査委員	教授　槇野　博史　教授　公文　裕巳　教授　田中　紀章

学位論文内容の要旨

家兎実験モデルを用いて，セボフルラン麻酔と腎毒性のあるメトキシフルラン麻酔で，腎内無機フッ素濃度を部位別に調べ比較した。両者とも麻酔終了時，腎内濃度は皮質から乳頭部に向かって大きくなる濃度勾配を認め，血清濃度の約1.5～5倍高値を示した。これは，腎での尿濃縮過程により形成されたと考えられ，メトキシフルラン腎代謝を示すような両麻酔間の明らかな腎内濃度較差は検出できなかった。

麻酔後の経時的変化では，低濃度・高濃度群とも速やかに減少したセボフルランに対して，メトキシフルランでは血清のみならず腎内においても，高濃度が長時間維持された。

これらの結果は，メトキシフルラン腎毒性の発現にその高脂溶性が重要な役割を果たしていることを示唆するものである。

論文審査結果の要旨

本研究は、家兎実験モデルを用いて、セボフルラン麻酔とメトキシフルラン麻酔で、腎内無機フッ素濃度を部位別に調べ比較したものであるが、両者とも麻酔終了時、腎内濃度は皮質から乳頭部に向かって大きくなる濃度勾配を認め、血清濃度の約 1.5 ～5倍高値を示した。

麻酔後の経時的変化では、低濃度･高濃度群とも速やかに減少したセボフルランに対して、メトキシフルランでは血清のみならず腎内においても、高濃度が長時間維持された。

これらの結果は、メトキシフルラン腎毒性の発現にその高脂溶性が重要な役割を果たしていることを示唆するものであり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。